

賛助会員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 (〒500-8148 岐阜県岐阜市曙町 4-15)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

(株) 環境総合テクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒140-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

ご投稿をお待ちしています

和文誌「藻類」は皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の報文（記事等）のご投稿もお待ちしています。ご投稿に際しましては、投稿案内（2017年3月30日改正：本号 p.192 に掲載）をご覧ください。（編）

編集後記

66巻3号をお届けします。相変わらず投稿論文が少ない状況です。是非ともご投稿をよろしく願います。この編集後記を書いているのは、台風 24, 25 号が来襲後、潮を被った木々の葉が茶色に枯れて色づいて、沖縄では紅葉はないのですが、まるで冬支度の様です。全国的にも大雨や、地震など、自然災害が増えている印象です。被害に遭われた方々におか

れましては、心からお見舞い申し上げます。極端な気象は地球温暖化のせいなのでしょう。藻類の研究が温暖化防止につながってくれればと願います。さて、今号には3月に京都大学で開催される43回大会のご案内も掲載されております。先日、京都駅前のホテルを調べたところ、空きが少ない状況でした。早めの予約をされるようお勧めします。

（須田彰一郎）

表紙 衣料繊維を支持体とした顕微鏡観察法

作成者：仲田崇志（慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科）

作成者より：微細藻類の細胞は時間が経つとプレパラート中で潰れてしまうため（左上段）、スライドガラスに衣料繊維を張り（右写真）、カバーガラスを支えることで細胞を潰れにくくしてみました（左下段）。写真の藻類は、*Microglena monadina*（細胞幅 15 μm 程度）（本誌 157 ページ参照）。